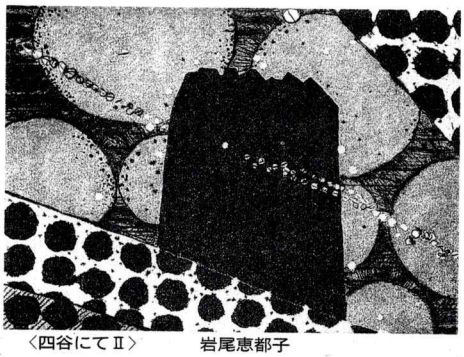
朝日 俳壇 歌壇



〈四谷にてⅡ〉　岩尾恵都子

短歌時評　生成AIと詠む

小島　なお

十一月六日、東京都内の書店でイベント「なぜAIとヒトは歌を詠むのか」が行われた。登壇者は朝日新聞社メディア研究開発センターの浦川通氏、歌人でありAIエンジニアの睦月都氏、「AI一茶くん」の開発に携わる俳人の大塚凱氏。

生成AIが作歌をすることへの危機感や善悪に留まっていた議論をアップデートしたいという趣旨のもと、いくつかの研究事例が紹介された。たとえば東北大学で開発されているのは短歌投稿サイト上の「いいね」の数をスコアとして作品精度をあげてゆく報酬モデル。ヒトが結社や歌会を通じて、善し悪しを学ぶのと同じように評価軸を持つことで体系的な学習が再現可能だという。また統計数理研究所の持橋大地氏らが共同研究しているのは、ヒトの短歌に対する評価の傾向を統計的に分析するというもの。あるデータでは「作品の完成度：良い／悪い」「好き／嫌い」の評価がともに高い作品として、栗木京子の代表歌「観覧車回れよ回れ想ひ出は君には一日我には一生」などが選出されている。

研究を通じて「いい歌とは何か」というAIに与えた問いが、そのまま人間に返ってくるという浦川氏の言葉が心に残った。近いうちに私たちの想像を超えた創造的なAIが誕生するだろう。けれど、ヒトの教えるデータを元にする以上、短歌の命題は謎のままになるのではないか。千三百年もの歴史を短歌が生き延びてきたのは誰も「いい短歌とは何か」への返答ができなかったからだろう。これからはAIとバディを組んで謎に立ち向かうことになるのだ。（歌人）

高野公彦選

ピカソの絵目鼻ちぐはぐなる意味を教へてくれし『名画を見る眼』（八尾市）水野　一也
やはらかきまびき菜ゆがくもともとはそれぞれの名をもちしをさな葉（淡路市）中土井裕子
まろき文字よし拓本を軸にして掛ける牧水秋ぐさのうた（新潟市）太田千鶴子
ポスターの笑顔は美男美女ばかり令和の加工技術の高さ（仙台市）沼沢　修
最下位の丙種の父は戦争を語らず逝った　訊けずに老いた（札幌市）田巻　成男
もっともっと殺しまっせとネタニヤフいのちを商うごとくに言えり（水戸市）中原千絵子
白神の樵の黄葉を賞づる旅夕食は茸づくしとなりぬ（東京都）上田　国博
映画館、銭湯、駄菓子屋、鶏舎消え虚しき言葉「地方創生」（観音寺市）篠原　俊則
ハンバーガー齧りてふつと目が合ひし監視カメラの銃口めきぬ（津市）舘　謙太朗
フランスに住む姪夫婦が三宅島にきて「わー火星みたい」と声あげる（東京都）三輪　裕子

【評】1首目、10月17日に亡くなられた美術評論家・高階秀爾さんを悼み、その業績を偲ぶ。2首目、可哀そうだが可愛い、と何種類かの間引き菜をゆがく。3首目、「かたはらに秋ぐさの花かたるらくほろびしものはなつかしきかな」の歌。

永田和宏選

通したい人よりむしろ落としたい人が際立つ今度の選挙（岡山市）伊藤　次郎
☆候補者は具体の言葉を遠ざけて一番聞きたいことを語らず（東京都）十亀　弘史
さよならは左様ならばとけふ知りぬ亡妻と吾とは無言の別れ（仙台市）二瓶　真
物忘れ探し物続くいつの日か私が私でなくなる不安（八王子市）藤原　弘子
このバスに今乗り居るを家族らの誰も知らぬとふと思いたる（横須賀市）阿部　文彦
教室でデジタルツール使っても上がらなかった古文理解度（大津市）佐々木敦史
☆濡れ衣を五十八年着し人に謝罪す五十七歳本部長（加東市）藤原　明
娘の手ひき新郎に預ければ後は黙して飲むだけの父（高崎市）嶋田由紀子
奥さんも遅れて乗り込む救急車行き先決まらず停車したまま（宇部市）佐藤　妙子
ケーニヒスベルクの七つの橋思い出町の橋から作戦立てる（大和郡山市）四方　護

【評】伊藤さん、まったく同感。落ちるべき人が落ちたとも実感はできないが。二瓶さん、「左様ならば」と納得できないところが悲しい。藤原さん、私もまさに「私が私でなくなる不安」の真っ最中。十首目、有名な一筆書き。なるほど出町か。

馬場あき子選

ドネーションのために髪伸ばす男の子いて街のピアノで夜想曲弾く（オランダ）宮沢　洋子
伴天連は大夕焼けにハライソを見て渡りたるこの五島灘（西海市）前田　一揆
おどおどと障害者の声聞いていた若き記者さんの記事温かし（関市）武藤　修
天災も労働も厳しかったはずなのに温和な埴輪たちの顔（東京都）上田　結香
☆候補者は具体の言葉を遠ざけて一番聞きたいことを語らず（東京都）十亀　弘史
息吸へば骨が鳴るよと子は言ひて乳歯の抜けし口開けて見す（弘前市）船水　葉子
☆盲導犬育ち明日は手放す日ブラッシングの手の止まりがち（京都市）金澤　啓明
幾たびの風雨乗り越え若き日に祭りで買いし木犀香る（飯田市）草田　礼子
解かれたる牧草ロール黒牛が舌を絡めて解しゆきたり（東京都）影山　博
紫にシキブ色づきジョウビタキ実をついばみて秋深まりぬ（須賀川市）近内志津子

【評】第一首は頭髪を失った子供たちに提供するウィッグのために髪を伸ばしている男の子の長髪に注目。街ピアノでの夜想曲も心に沁みる。第二首は五島灘の美しい夕焼けに偲ぶ伴天連たちへの思い。第三首、記者さんの誠実さが伝わる。

佐佐木幸綱選

手品終えた我を園児が取り囲む魔法使いの役降りられず（岡崎市）三上　正
☆盲導犬育ち明日は手放す日ブラッシングの手の止まりがち（京都市）金澤　啓明
また一つ増える実家のプランター食べるものしか母は育てぬ（川崎市）小林　美佐
☆濡れ衣を五十八年着し人に謝罪す五十七歳本部長（加東市）藤原　明
カニパンとアンパンマンパン好きな子に栗の皮むき栗飯を炊く（東久留米市）白井　澄江
図書館で泣きだした児に保育士が小さく強く「ここでは泣かない！」（横浜市）田中　廣義
人間は避けて通ると知りたるかマムシ一匹身動きもせず（栃木県）川崎　利夫
帰宅した家族それぞれ呼び止めて初咲きの月下美人に逢わせる（三鷹市）大谷トミ子
ふるさとの旧友の訃りにあたたまる語尾に「にゃー」付く新庄言葉（仙台市）沼沢　修
そんな眼をもちたいものと思いしは高階さんの「名画を見る眼」（逗子市）織立　敏博

【評】第一首、子供たちの期待を思うと手品が終わってからが大変。楽しそうに困っている。第二首、盲導犬のデビューは二歳から。大切にかわいがってきたのだ。第十首、十月十七日に逝去された高階秀爾氏追悼の作が多くあった。

風信

月野ぽぽな句集「人のかたち」　現代俳句新人賞、角川俳句賞俳人の第1句集。「途中下車してしばらくは霧でいる」「もうすぐで雪のはじまりそうな肌」（左右社・1980円）

岩田奎著「田中裕明の百句」　「はじめに」で裕明を「令和俳句の通奏低音、共通のコードといえる存在」と解説。「みづうみのみなとのなつのみじかけれ」（ふらんす堂・1650円）

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のはがき1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿できます（週に2作品まで）。QRコードから。